



発達障害のある子のキモチ～子どもに寄り添う大人のこころがまえ～

② 寄り添う大人のためのこころがまえ

2024.07-09

木更津市健康こども部こども発達支援課
令和6年度
木更津市保育士・幼稚園教諭等研修会

発達研修ユニット みつばち
初川 久美子



ホームページ

本動画のメニュー



寄り添う大人のためのところがまえ

これまで、さまざまな機会にいただいた

- ・支援者の方からの質問
- ・保護者の方からよく聞かれる質問

をもとに、お伝えします。

Q1.保護者との連携、保護者支援

- 保護者の理解が得にくい、あっという間に時間が経ってしまう（保育園）
- 保護者との連携で配慮している点は（小学校）

◆保護者との連携、保護者支援

- 「発達障害の子を育てる」、その難しさ

→ “子が発達障害”

- ① 保護者にもその傾向がある可能性高い
- ② 子にまつわるストレス状況におかれる可能性高い

子が発達障害 ①保護者もその傾向がある可能性高い

- 発達障害の遺伝率「ある程度は遺伝する」(篠山、2023)
 - ASD 60-90%程度、ADHD 60-80%程度
 - 参考) 身長遺伝率 80%
 - 体重の遺伝率 5歳時では95%、50歳時では60%→調査の時期で変わる
 - 知能の遺伝率 5歳時20%、16歳時60%、50歳時80%
 - 小さいときの知能は環境の影響大、成熟すると持って生まれた能力に落ち着く
 - 現在の親世代は特別支援教育開始(2007)前に学校教育を受けた
 - 周囲の無理解、大人からの過度な叱責→ACEを有する可能性(山崎、2019)
 - *ACE:逆境的小児期体験
 - 辛い「学校」経験、“支援”のピンと来なさ

子が発達障害 ②子にまつわるストレス状況(++++)

- これまでの子育ての中で苦境におかれてきた可能性
 - 育てづらさ、周囲との軋轢、外出を控える……孤立しがち
 - 幼少期における「様子を見ましょう」
 - 支援にかかるにあたっての時間的・経済的成本
 - 支援者となるはずの園・学校の先生との関係がこじれやすい
 - 子どものこころの診療において、伝えられた治療方針に沿って改善を目指すためには保護者の役割(キーパーソン機能)に期待する部分が非常に大きい(山崎ら、2018)
 - つまり、保護者を「親役割」に据え、機能することが前提となりやすい
 - 結果として、「度重なる電話・連絡帳」→追い詰められやすい

▶対応の実際～子の苦戦を伝える、話し合う

- 事実は共有し、“どう解釈してどうして欲しいか”まで伝える
 - 家でもう一度振り返ってほしい、知るだけで十分で何もしなくてよい等
- 保護者が大切にしたいことを探りながら話す
 - 学習、友達関係、「普通」、毎日登校する、迷惑をかけない 等
 - こちら側の目的とズレると話し合いがかみ合わない
 - 保護者の願いを探り、確認したうえで、接点・重なりを見つける

▶対応の実際～コミュニケーション面

- 発達障害や発達特性強めの方に良いコミュニケーション方法が参考になる
 - 見通し、予測の共有
 - シンプルなコミュニケーション
 - 「傾向と対策」をふまえる

★ 子（保護者）が発達障害かどうかに関わらず、
シンプルなコミュニケーションを！

◆保護者との連携、保護者支援 まとめ

- 「子の苦戦」を伝えつつ、「保護者が大事にしたいこと」を見失わず、伴走し続ける
 - 相談機関、医療機関につないでも関係を継続する
- 子に直接関われるのは学校・園の最大の強み
 - うまくいった手立てを伝える
- 家での苦労・家族の苦戦に思いを馳せる
- バトンをつないでいくイメージで
- 誰も悪者にしない、環境による変化の大きさを忘れない

Q2.集団の中で／個別に どう関わるか

- 個の主体性を尊重する中で集団活動での困り感にどう寄り添うか。集団の中でのきまり、約束、安全面などをどう知らせるか。環境づくりについて。（保育園）
- 発達障害の可能性がある生徒への指導をどこから、何から始めるか。問題行動を見つけた際に他の生徒と同じように指導をしてよいのか。生徒が学校に来なくなるかとも思うと強くは言えない。（高等学校）

◆発達段階に応じた、集団・個別での関わり①

- 低年齢ほど、環境調整の手立て（工夫、仕掛け）をたくさん
保護者の支援レパートリーがまだ少ない可能性
思わずやってしまう仕掛け、視覚支援を中心に
でも視覚支援が多すぎるとガチャガチャするので要注意
声かけよりも、仕掛けに注力する
仕掛けに引っ掛かっただけでも「よくできたね」でいい



レジ前の足跡
(つい合わせちゃう)



ガチャガチャの空カプセル回収ボックス
(思わず入れたくなっちゃう)

◆発達段階に応じた、集団・個別での関わり②

- 注意すること・指導することは厳選する
危険なことは注意するが、それ以外でどこまで厳選できるか
注意や叱責がBGMにならないように
- 遊び：（次スライド）

「一人で過ごす」について

ずっと読書、お絵描き、縄跳び…一人遊びばかり

- ようやく一人で自由に過ごせる！

日中は学校のペースで過ごしていて疲れた

- 本当は誰かと一緒に遊びたい

遊び方がわからない→ルールを教える／付き添う

入り方がわからない→付き添う

まずは見学から始めたい場合も

- ポイント：本人に聞く／安心安全／段階をふむ

◆発達段階に応じた、集団・個別での関わり③

子ども目線でいうと…

- 小中学生までは、大人がする工夫を受け取る立場
バイパスのかけ方（別ルート）のレポーターリーを知る
- 中学生以降、自分でそれを繰り出す立場へ
使えるツールも増える ex スマホ、PC
- 小学校高学年くらいから、「自己理解」の段階へ
障害文脈である必要はない
自分の得意不得意、苦手なところへの対処を（教わって）知る

◆発達段階に応じた、集団・個別での関わり④

- 自己理解のために大切なこと

「あなたは、それをしているとき、すごくいい表情をしてるね」

「こういう作業は苦手みたいだね」

「でも、こんな風にしてみると最後までできるね」

体験・経験からの直感的な理解が苦手→伝えてあげる必要あり

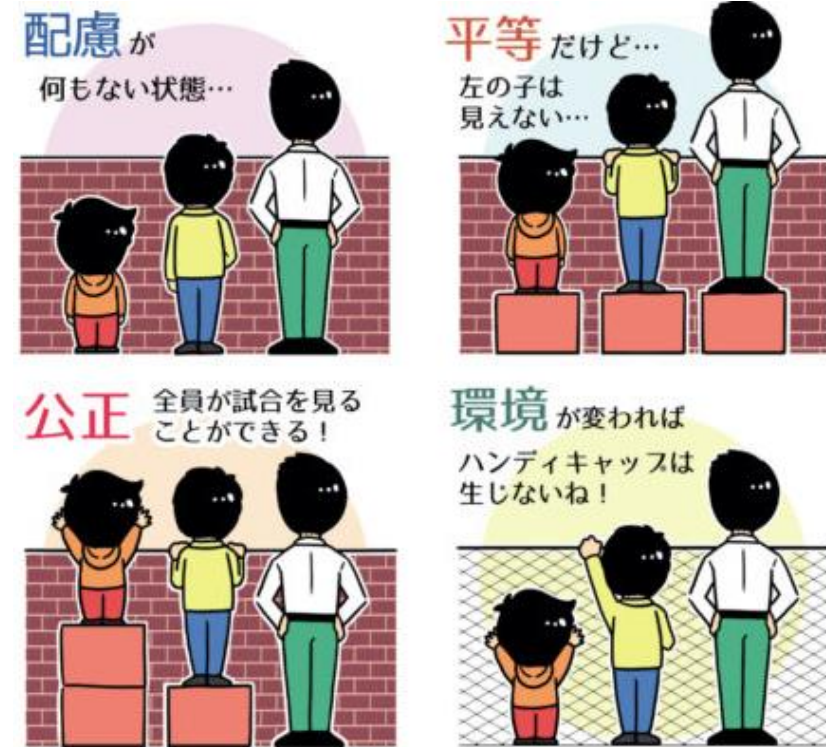
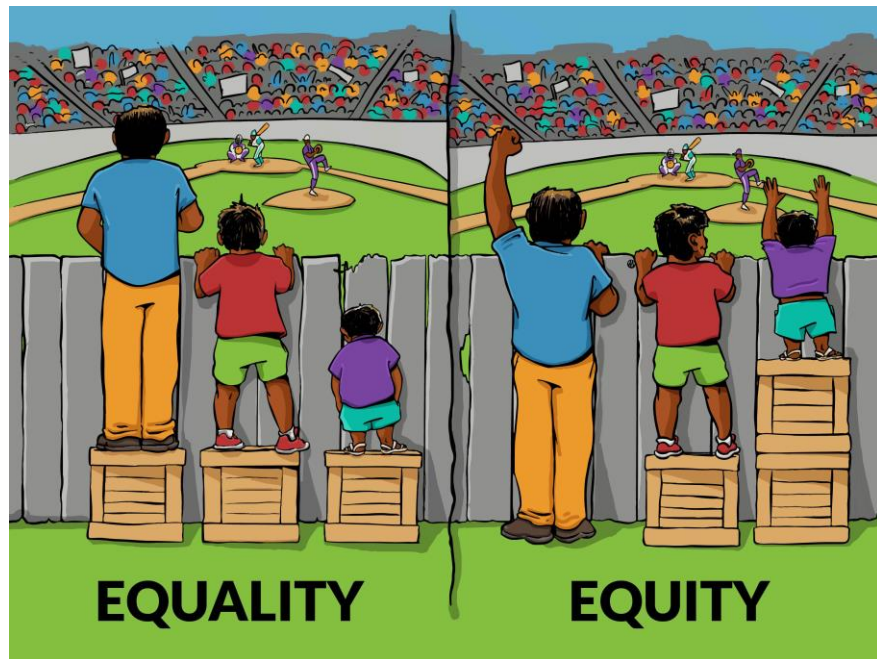
cf. ネット情報

Q3. 特別扱い？

- 配慮が必要なことはわかるが、他の子が「ずるい」と言うのではないか？（小学校）
- 他の子と同じようにできることはやってほしい（小学校）

◆合理的配慮とは（本当は「合理的調整」と呼びたい…）

- 合理的配慮、手立て、支援…「マイナスをゼロにするため」



◆【図表でわかる!】発達障害 × 合理的配慮 | 「タブレットの利用はズルい」？ 合理的配慮を”不平等”だと感じる人へ
TEENSのHPより <https://www.teensmoon.com/category/chart/>

◆発達障害のある子にとっての学校とは①

- 「学校」という枠組みや“標準”にフィットしづらい

– 合理的配慮をする理由（野口、2023）

今の学校は見える人、聞こえる人、読める人、書ける人、歩ける人など、障害のない人を中心につくられているから

→ 今の学校が障害のある児童生徒に合っていない可能性

◆発達障害のある子にとっての学校とは②

- 能力として「出来る／出来ない」以前に、消耗しやすい

コンディション



スキル



パフォーマンス

体調、気分などのほかに、
例えば…

- ・興味関心
- ・取り組みやすい「環境」：注意集中、感覚、人間関係
- ・取り掛かりやすい方法：話す聞く読む書く



◆発達障害の子の声を聞く、思いを馳せる

- 当該児童生徒の苦戦をまずは知る（聞く）
- そのうえで一緒に考える

ダメなものはダメと言わねばならないときもある、でも…

「(その子が) そうせざるを得なかったのはなぜか」に思いを馳せる

その子が抱えている不公平に見合うだけ、不平等に扱う

人は苦境に立たされれば、多くが自分の理想とは異なる行動を取る

苦境の際には「理想」が選択肢にないときもある

保護者の方から よくいただく質問

「発達障害」という診断は必要なの？

- 診断があると得やすくなるもの→【理解】と【支援】
それが得られるなら、診断はなくても大丈夫かもしれない
- 診断がついても子の状態が突然良くなるわけではない
でも支援・手立て・工夫の精度は上げやすくなる
良き支援までの道のりのショートカットが可能かも

『リエゾンーこどものこころ診療所ー 凸凹のためのおとなのこころがまえ』
三木崇弘・著 講談社



「検査（知能検査、発達検査）」は必要なの？

- 知能検査を受けたところで、発達障害かどうかはわからない

知能検査でわかること：

- 知的発達がどの程度か
- ざっくりとした得意不得意
- 検査室という特殊環境でのパフォーマンス

知能検査でわからないこと：

- 読み書きの障害
- 学力との関連（わかる部分もあるが、知能≠学力）

- 知的発達の傾向を知るためにはおすすめ

まずは、何から始めたらいいの？

【相談相手を見つける】

-我が子の子育てを伴走する人のネットワークを作る

例) パートナー、親友／園や学校の先生／地域の相談機関 etc

-「聞く」は「聞いてもらう」が先

子話を聞くために、大人の話は大人の間です

-トライ&エラーと一緒に

「答え」を持っている人は誰もいない、「答え」は後からわかること

実はちょっとした工夫でうまくいくことも多い

地域の資源を活用してみる

- 地域の相談窓口

未就学児→子ども家庭支援センターなど

小学生以降→スクールカウンセラー、教育相談、児童相談所

- 受診する

かかりつけの小児科／児童精神科（＊紹介状必要な場合もあり）

- 園や学校の先生に相談する

担任、養護教諭、特別支援コーディネーター

おすすめの“ころろがまえ”

- 100点を目指さない
- 「80点の日があれば、20点の日もある」よりも、
「ずっと65点」を目指す
- “保護者が安定していると子は落ち着く”
- 困ったときは基本に立ち戻る
どうすれば、子どもと楽しく過ごせるか

『リエゾン—こどものころろ診療所— 凸凹のためのおとなのころろがまえ』
三木崇弘・著 講談社



Q.子にイライラしてしまう自分に自己嫌悪！

- 子育てはキレイなものではない
- 親密な相手との関係はこじれやすい
- 守るべき線はあるけれど、「謝って、やり直す」も大事

2022/12/27更新 2022/12/27公開

17341 View

「親だから泣いちゃだめ？」発達障害児2人育児、癇癪や多動、声かけストレスに我慢の限界ー子どもたちに感情をぶつけてしまった日【専門家アドバイスも】

ライター：スガカズ



発達障害のあるお子さんに話しかける際に、特性から指示が通りづらいと感じる経験は少なからずあるのではないのでしょうか？

わが家でも長男（ADHD、ASD）と次男（ADHD）と話をしたり指示をする際に「気づいてもらえない、聞いてもらえない」ジレンマを感じることは頻繁にありました。

落ち込んでいたある日、ついに私は気持ちを抑えることができず、2人に怒鳴ってしまいました。怒鳴ってすぐ後悔しました。



全文こちらから

LITALICO発達ナビの
初川監修コラムより